

デジタルマップを使った 災害を想定したまちづくり

9月12日(木)、1学年では厚木市 都市みらい部 都市計画課の方のお話を聞きました。厚木市では災害を想定したマップをデジタル化して、市民へ防災対策を促しています。今回はSDGsの理念をふまえた、住み続けられる街づくりについて学びました。



講演メモ

自助・公助・共助
自分たちの手で住み続けられる町づくりを！



<以下、講話後のアンケートより>

- ・自分の町などの災害被害予想を見ることは大切だと思った。何かあってからじゃ遅いから、どこが安全かなど把握した方がいいと思った。
- ・前回の台風で私の住んでいる平塚は冠水していたし、家は平気だったけど近くの公園などは完全に冠水していたからマップを見てどこに被害があるかちゃんと確認しておく必要があると考えさせられた。
- ・自分の命だけでなく家族の命のためにも3Dマップを活用して災害対策を頑張ろうと思う。
- ・細い川が集まって大きな被害を出すように、自分の小さな慢心が積み重ねられて大きな被害になるというのを考えさせられました。
- ・日本の人口は毎年減っていきっていますが、それによるデメリットはあまり考えたことがなくて、今回知ることができました。人が減って市の税収が減ってしまうと公共施設が使えなくなってしまうたり、経済が回りにくくなってしまうたり、良いことはないかなと感じました。自分の住んでいる地域をより良くしていくために、私達も自分にできることは積極的にやっていきたいと思います。
- ・単に、問題を解決するだけじゃ、またその問題を繰り返してしまう可能性があるからこのような長期的な視点は大切だなと思いました。SDGsという言葉聞く機会が多くなったからこそ、自分の過ごし方と照らし合わせて見つめ直すべきだなと思いました。



9月1日は防災の日です。天災は忘れた頃にやってくるとも言いますが、近年想定を超えた災害が増えています。学んだことを活かすとよいですね。

